

2024年度 町田市立町田第五小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和7年3月31日

| | |
|---|---|
| 学校教育目標 健康な子ども 考える子ども 助け合う子ども 進んでやる子ども | 学校経営の重点 いじめの早期発見・早期対応・保護者との連携 |
| <p>○目指す学校像・・・子どもたち一人一人の健康・安全・人権を大切に、子どもたち全員が毎日、笑顔で「行ってきます。」と言って家を出て笑顔で「ただいま。」と言って帰ることができる学校</p> <p>○目指す児童・生徒像・・・【健康な子ども】命を大切に。運動に親しむ。感染予防に気を付けながら規則正しい生活を送る。【考える子ども】よく見て聞いて考えて行動する。新たなアイデアを生み出す。【助け合う子ども】相手を大切に。同年齢、異学年の人と協力して問題を解決する。【進んでやる子ども】自ら考え、判断して行動する。失敗を恐れずに前向きに挑戦する。</p> <p>○目指す教師像・・・子どもたち一人一人を大切にしている教師、子どもたちの「心」の声を聴こうと努める教師</p> | <p>重点目標の成果と課題</p> <p>・いじめの早期発見・早期対応については、毎月実施している「心のアンケート」や「Q-U調査」の全学年実施、保護者と連携した「子ども見守りシート」の取組等、確実に実施した。毎月開催したいじめ対応チームにおいて、「心のアンケート」を中心とした児童からの訴えについて協議し、対応方法を確立した。</p> <p>・いじめの認知件数が12月末までで137件(故意59件、故意でない78件)と昨年の同時期(12月)の255件(故意126件、故意でない129件)と比較して大きく減少している。減少した理由はいじめ自体の減少なのか、心のアンケートが形骸化しているのか等、「心のアンケート」の実施方法を踏まえて検討していくことが必要である。</p> |

| 領域 | 教育プランに基づく経営目標 | 中期・短期経営目標 | 具体的方策 | 取組指標 | 平均 | 評価 | 成果指標 | ○% | 評価 | 分析コメント | 改善策 | 学校関係者評価記入欄 | 評価 |
|----------------|---|--|---|--|----|----|--|-----|----|---|--|--|----|
| 社会に開かれた教育課程の実現 | 目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。 | 地域の環境及び人材を生かした体験的活動を企画し、実施する。 | ゲストティーチャーや地域ボランティアを積極的に活用する。 | 4 年間指導計画の80%以上の指導場面で実施 3 年間指導計画の70%以上の指導場面で実施 2 年間指導計画の60%以上の指導場面で実施 | 4 | A | A 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 60%未満 | 92% | A | 地域と連携した教育活動に関しては、92%と高い評価を得ている。地域運営学校(コミュニティスクール)を年間7回実施した。学校の取組に関しての助言やサマースクール等の企画、教育課程の承認等、学校を支援するための取組が学校運営協議会で行われた。学校ホームページをリニューアルし、月に2回程度更新することができている。6月、10月、1月に学校公開ウィークを設け、保護者の方が来校しやすい環境を作るための取組を行った。結果、「学校は、保護者会や学校公開、学校行事などで教育活動を公開している」の評価項目で、肯定的な回答が95%と高い評価を得た。 | 学校は、保護者の方に情報を発信していかなければいけないと感じている。学校ホームページを定期的に更新し、保護者の方の教育活動への理解を図っていくようにしなければならない。次年度は、最低月2回の学校ホームページの更新と保護者の方の要望を取り入れた掲載内容にしてい、「サマースクール」や「きんじよの本棚」等の学校運営協議会と連携した取組の更なる充実を図っていく。 | 学校はホームページの定期的な更新を再開し、授業公開に積極的で、保護者が学校や児童の様子を知る機会がある。ボランティア・コーディネーターを通じた地域との連携が密接で、児童館と連携した体験授業もできている。学校運営協議会での情報共有も十分にできている。 | A |
| | | | コミュニティスクールを通じて、本校の教育活動を周知し、意見交換を行う。 | 4 必要情報の80%以上を周知 3 必要情報の75%以上を周知 2 必要情報の70%以上を周知 1 必要情報の70%未満を周知 | | | A 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 60%未満 | | | | | | |
| 社会に開かれた教育課程の実現 | 目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。 | 積極的な情報発信と公開を通して、教育活動への理解を求める。 | 学校だより・学年だより、ホームページの更新で保護者の安心できる情報を発信する。(スクールサポートスタッフを活用する。) | 4 月3回以上の更新 3 月2回以上の更新 2 月1回以上の更新 1 月1回未満の更新 | 3 | B | A 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 60%未満 | 85% | A | 学校は、保護者会や学校公開、学校行事などで教育活動を公開している」の評価項目で、肯定的な回答が95%と高い評価を得た。 | 学校として主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んできているが、特に対話的な学び及び深い学びの実現に向けて課題がある。基礎的・基本的な知識・技能の習得と対話的で深い学びの実現という両方を目指した取組方法を検討し、実践していく必要がある。 | 基礎的、基本的な学力が課題として出てきていると肯定的に考える保護者が多いことは、評価したい。ただ中学受験をする児童が比較的多く、一方で授業に参加できない児童も一部にいて、学力差には留意されたい。読書に図書館の利用が積極的な児童が多いが、地域の「きんじよの本棚」なども活用し、読み聞かせなど地域を巻き込んだ取り組みを広げたい。 | B |
| | | | 保護者の気持ちに寄り添い、良好な人間関係のもとに、教育活動を積極的に公開する。 | 4 年10日以上以上の学校公開を実施 3 年7日以上以上の学校公開の実施 2 年5日以上以上の学校公開の実施 1 年5日未満の学校公開の実施 | | | A 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 60%未満 | | | | | | |
| 確かな学力の育成 | 授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。 | 授業をデザインする8つの取組を踏まえ、子どもが「分かる できる つくる 楽しい授業」を展開する。 | 個に応じた指導を徹底し、つまづきを取り除き、知識・技能を定着させる。 | 4 80%以上の授業で意識して指導した 3 70%以上の授業で意識して指導した 2 60%以上の授業で意識して指導した 1 60%未満の授業で意識して指導した | 4 | A | A 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 60%未満 | 88% | A | 「お子様は、各教科の基礎的・基本的な事柄が身に付いている」のアンケート項目での肯定的な回答が88%と基礎的・基本的な力が身に付いてきているとされている保護者の方が多い。一方、「学びに向かう姿勢」の項目については、69%と課題が残る結果となった。その中の読書活動については、「すすんで読書をしている」の項目についての肯定的な回答が64%であり、昨年度より2ポイント低下した。「英語学習に楽しく取り組んでいる」69%で昨年度より2ポイント上昇、「ICT(学習機器)を積極的に活用している」81%で昨年度より2ポイント上昇した。 | 学校として主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んできているが、特に対話的な学び及び深い学びの実現に向けて課題がある。基礎的・基本的な知識・技能の習得と対話的で深い学びの実現という両方を目指した取組方法を検討し、実践していく必要がある。 | 基礎的、基本的な学力が課題として出てきていると肯定的に考える保護者が多いことは、評価したい。ただ中学受験をする児童が比較的多く、一方で授業に参加できない児童も一部にいて、学力差には留意されたい。読書に図書館の利用が積極的な児童が多いが、地域の「きんじよの本棚」なども活用し、読み聞かせなど地域を巻き込んだ取り組みを広げたい。 | B |
| | | | 自分の考えを多様な方法で表現させ、協働学習(アクティブ・ラーニング)を導入する。 | 4 70%以上の授業で実施 3 60%以上の授業で実施 2 50%以上の授業で実施 1 50%未満の授業で実施 | | | A 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 55%未満 | | | | | | |
| 確かな学力の育成 | 授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。 | 学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子どもを育てる。 | 主体的・対話的・深い学びを意識した授業改善を図る。 | 4 80%以上の授業で実施 3 70%以上の授業で実施 2 60%以上の授業で実施 1 60%未満の授業で実施 | 3 | B | A 学校評価アンケート「イ」⑤「ICTの積極活用」肯定的評価 80以上 B 学校評価アンケート「イ」⑤「ICTの積極活用」肯定的評価 70以上 C 学校評価アンケート「イ」⑤「ICTの積極活用」肯定的評価 60以上 D 学校評価アンケート「イ」⑤「ICTの積極活用」肯定的評価 60%未満 | 81% | A | 「お子様は、各教科の基礎的・基本的な事柄が身に付いている」のアンケート項目での肯定的な回答が88%と基礎的・基本的な力が身に付いてきているとされている保護者の方が多い。一方、「学びに向かう姿勢」の項目については、69%と課題が残る結果となった。その中の読書活動については、「すすんで読書をしている」の項目についての肯定的な回答が64%であり、昨年度より2ポイント低下した。「英語学習に楽しく取り組んでいる」69%で昨年度より2ポイント上昇、「ICT(学習機器)を積極的に活用している」81%で昨年度より2ポイント上昇した。 | 学校として主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んできているが、特に対話的な学び及び深い学びの実現に向けて課題がある。基礎的・基本的な知識・技能の習得と対話的で深い学びの実現という両方を目指した取組方法を検討し、実践していく必要がある。 | 基礎的、基本的な学力が課題として出てきていると肯定的に考える保護者が多いことは、評価したい。ただ中学受験をする児童が比較的多く、一方で授業に参加できない児童も一部にいて、学力差には留意されたい。読書に図書館の利用が積極的な児童が多いが、地域の「きんじよの本棚」なども活用し、読み聞かせなど地域を巻き込んだ取り組みを広げたい。 | B |
| | | | プロジェクター、クロームの活用を推進し、めあてに応じてICTを活用できる力を育てる。 | 4 80%以上の授業で実施 3 65%以上の授業で実施 2 50%以上の授業で実施 1 50%未満の授業で実施 | | | A 学校評価アンケート「イ」⑤「ICTの積極活用」肯定的評価 80以上 B 学校評価アンケート「イ」⑤「ICTの積極活用」肯定的評価 70以上 C 学校評価アンケート「イ」⑤「ICTの積極活用」肯定的評価 60以上 D 学校評価アンケート「イ」⑤「ICTの積極活用」肯定的評価 60%未満 | | | | | | |
| 豊かな心の涵養 | 多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること意識・態度を育てる。 | 生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。 | 人権を相互に尊重する姿勢を育て、いじめを絶対に見逃さない生活指導 | 4 いじめ防止の授業を月に1回以上指導実施 3 いじめ防止の授業を学期に2回以上指導実施 2 いじめ防止の授業を学期に1回以上指導実施 1 いじめ防止の授業を年に2回以上実施 | 3 | B | A 学校評価アンケート「ウ」①「いじめや体罰防止」の取組 肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」①「いじめや体罰防止」の取組 肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」①「いじめや体罰防止」の取組 肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ウ」①「いじめや体罰防止」の取組 肯定的評価 60%未満 | 87% | A | 「学校は、いじめ防止や体罰防止に取り組む、子供の人権を大切にしている」の項目に対し、肯定的な回答が87%であった。昨年度より、2ポイント減になっているが、保護者の方から高い評価を得ている。また、「お子様は、ICT(学習機器)、スマートフォンなどによるネットマナーが身に付いているか」の項目に対する肯定的な回答が67%と昨年度より9ポイント減になった。社会において誹謗中傷等の書き込みが問題になる中、どのようなことを、どの段階で身に付けなければいけないかを検討しなければいけない。 | いじめの早期発見・早期対応については、いじめ対応チーム内で全ての案件を検討し、対応策を協議した。若手教員が多くなっている現状を踏まえ、学級担任だけでなく、管理職や主幹教諭、学年で対応できる組織作りを行っていく必要がある。 | 学校は、いじめ対応チームを中心に管理職はじめ主幹教諭や教諭間で情報共有に熱心に取り組む、いじめ対策を通して人権教育を進めている。ICTとの向き合い方は、ネットマナーはもちろん、家庭を巻き込みつつ、低学年から積極的な取り組みを期待したい。 | A |
| | | | 道徳科の授業では道徳的価値に基づく自己の振り返りの時間を設置し、道徳的実践力を育てる。 | 4 全ての道徳授業で指導実施 3 90%以上の道徳授業で指導実施 2 80%以上の道徳授業で指導実施 1 80%未満の道徳授業で指導実施 | | | A 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 60%未満 | | | | | | |
| 豊かな心の涵養 | 多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること意識・態度を育てる。 | 児童の自己有用感を高め、人との関わりを通して自分も友達も大切にできる態度を養う | 子どもの主体的な活動を重視する。委員会、クラブ、異学年交流活動、実行委員会、かかり活動など | 4 80%以上の指導場面で実施 3 70%以上の指導場面で実施 2 60%以上の指導場面で実施 1 60%未満の指導場面で実施 | 3 | B | A Q-U、もしくは、児童アンケートでの満足評価 80%以上 B Q-U、もしくは、児童アンケートでの満足評価 70%以上 C Q-U、もしくは、児童アンケートでの満足評価 60%以上 D Q-U、もしくは、児童アンケートでの満足評価 60%未満 | 78% | B | 「学校は、いじめ防止や体罰防止に取り組む、子供の人権を大切にしている」の項目に対し、肯定的な回答が87%であった。昨年度より、2ポイント減になっているが、保護者の方から高い評価を得ている。また、「お子様は、ICT(学習機器)、スマートフォンなどによるネットマナーが身に付いているか」の項目に対する肯定的な回答が67%と昨年度より9ポイント減になった。社会において誹謗中傷等の書き込みが問題になる中、どのようなことを、どの段階で身に付けなければいけないかを検討しなければいけない。 | いじめの早期発見・早期対応については、いじめ対応チーム内で全ての案件を検討し、対応策を協議した。若手教員が多くなっている現状を踏まえ、学級担任だけでなく、管理職や主幹教諭、学年で対応できる組織作りを行っていく必要がある。 | 学校は、いじめ対応チームを中心に管理職はじめ主幹教諭や教諭間で情報共有に熱心に取り組む、いじめ対策を通して人権教育を進めている。ICTとの向き合い方は、ネットマナーはもちろん、家庭を巻き込みつつ、低学年から積極的な取り組みを期待したい。 | A |
| | | | 交通安全防止や不審者対応の安全意識、ネットマナーなどの育成 | 4 安全教育的授業で月に1回以上指導実施 3 安全教育的授業で学期に2回以上指導実施 2 安全教育的授業で学期に1回以上指導実施 1 安全教育的授業で年に2回以上実施 | | | A 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 60%未満 | | | | | | |
| 健全な体の育成 | 正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付けて安全指導・安全教育を充実する。 | 運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。 | 体力テストの結果分析を生かした体育科の授業や体育朝会、体力向上旬間を実施し、運動の日常化を行う。 | 4 80%以上の授業で実施 3 70%以上の授業で実施 2 60%以上の授業で実施 1 60%未満の授業で実施 | 2 | C | A 80%以上の児童が課題項目で体力が向上 B 70%以上の児童が課題項目で体力が向上 C 60%以上の児童が課題項目で体力が向上 D 60%未満の児童が課題項目で体力が向上 | 86% | A | 毎週金曜日に生活指導夕会を行い、児童の状況等について情報共有した。スクールカウンセラーや養護教諭からも情報共有を入れた。時間が15分しか取れないことが課題であり、生活指導夕会と児童の情報を詳細に共有する校内委員会(月1回開催)の役割を明確にしていかなければいけない。 | 児童の情報共有の時間を確保して、全教職員が対応方法を確保できるための時間確保が課題である。そのため、月一回の校内委員会の時間を1時間確保するとともに週1回の生活指導夕会において対応状況を伝える場を設定する等の体制を整えていく。体育部を中心に運動の日常化を図るための取組についての検討を行い、体を動かすことの大切さについて継続して指導を行っていく。4月から7月、9月から12月、1月から3月の3期に分けてそれぞれの重点取組を決定し、実践していく。 | 基礎的な体力向上のため、日常的に運動に取り組む仕組みは十分だが、保護者の中で核になる人を作るなどして、いま以上に家庭と連携した食育や健康教育の推進をのぞみたい。金曜日の生活指導夕会など、多忙な中で短時間でも情報共有できる体制を定着させてほしい。 | B |
| | | | 生活リズム定着週間を活用し、家庭と連携した健康教育と食育を推進する。 | 4 全ての指導場面で実施 3 90%以上の指導場面で実施 2 80%以上の指導場面で実施 1 80%未満の指導場面で実施 | | | A 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 80%未満 B 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 60%未満 | | | | | | |
| 健全な体の育成 | 正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付けて安全指導・安全教育を充実する。 | 安全な環境を整備し、自己・他者の命や心身を守る力を育成する。 | オリンピックレガシー教育計画に基づき、共生の精神をはぐくむための体験的活動を取り入れた学びを全校で実施する | 4 月1回以上の体験活動を実施 3 年間5回以上の体験活動の実施 2 年間3回以上の体験活動の実施 1 年間3回未満の体験活動の実施 | 3 | B | A 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 60%未満 | 75% | B | 毎週金曜日に危機管理情報を共有し、専門機関とも連携を図り、チーム支援力を高め指導充実を図る。 | 健康教育に関しては、「お子様は日常的に、運動やスポーツに積極的に取り組んでいる」の肯定的な回答が75%と昨年度より6ポイント減少した。運動する児童と運動をしたがらない児童の二極化を防ぐために、日常的に運動を行うことができるための取組が必要である。 | 基礎的な体力向上のため、日常的に運動に取り組む仕組みは十分だが、保護者の中で核になる人を作るなどして、いま以上に家庭と連携した食育や健康教育の推進をのぞみたい。金曜日の生活指導夕会など、多忙な中で短時間でも情報共有できる体制を定着させてほしい。 | B |
| | | | 毎週金曜日に危機管理情報を共有し、専門機関とも連携を図り、チーム支援力を高め指導充実を図る。 | 4 80%以上の指導場面で実施 3 70%以上の指導場面で実施 2 60%以上の指導場面で実施 1 60%未満の指導場面で実施 | | | A 生活指導夕会の実施率 90%以上 B 生活指導夕会の実施率 80%以上 C 生活指導夕会の実施率 70%以上 D 生活指導夕会の実施率 60%未満 | | | | | | |